

## 未登記の道の整理

土居 豊榮 議員



町内には道路として無償提供された土地や、待避所として利用している用地が無登記でたくさんある。

八代農道、伊野山霧ヶ平農道、北山農道などは昭和30年代から昭和40年の初期に、関係者が労務奉仕をして開設された。

道の開通は資材の運搬や肥培管理が楽となり、特産の赤土生姜や赤芽芋は、品質の向上と安定した生産量が確保され、消費地への計画出荷が可能となり、大阪市場から、関東、北海道へと販路を拡大した。

農家収入は7桁近く増収

した。

50余年の今、開設世話人、貴重な土地を提供された地権者の方々や、所有地のすべてを農道用地に提供された方も亡くなった。

これらの土地の整理を早くするべきだが、町ではどのように対策ができるか。

水田土木課長

町の町道、農道、林道は合わせて1098路線、総延長725.5kmあり、戦後の失業対策事業や高度成長期に数多く路線の新設又は改良工事が行われ、その際には地権者の方のご理解をいただき口頭承諾のみで施工し、現在も分筆登記を行っていない箇所が数多くあるのが実情である。

町としても早期にそれらの整理を行いたいと考えているが、地権者及び隣接地権者の方々の境界立会や登記書類へ権利者全員の実

印押印などの業務が必要となることから、現在行っている国土調査に合わせて分筆、公衆用道路への地目変更登記を行っていくことで、地権者のご理解を得ながら、今後も進めていきたい。

なお、これらの問題の早期解消のため、国土調査事業については、より一層の事業推進を進めていきたい。



国土調査